

# 国立歴史民俗博物館共同研究棟（連携融合）建設に伴う埋蔵文化財調査 佐倉城跡（歴博第10次）発掘調査現地説明会

日時：平成25年2月3日（日）

（国立歴史民俗博物館 佐倉市文化課（公財）印旛郡市文化財センター）



本調査は、国立歴史民俗博物館共同研究棟の建設に伴い行われた埋蔵文化財調査です。国立歴史民俗博物館（以下歴博）のある地は、近代において佐倉連隊の兵営がおかれた場所です。佐倉連隊の兵営は、明治7～8年（1874～1875年）に置かれ昭和20年（1945年）の終戦まで約70年の間存続しました。その後は、引揚者の寮や佐倉中学校の校舎として使用され、昭和56年には歴博が完成し現在に至ります。発掘調査地点は兵営内のうち、連隊本部棟とその裏側の地点にあたります（3ページ参照）。検出された遺構、遺物は、以下の通りです。

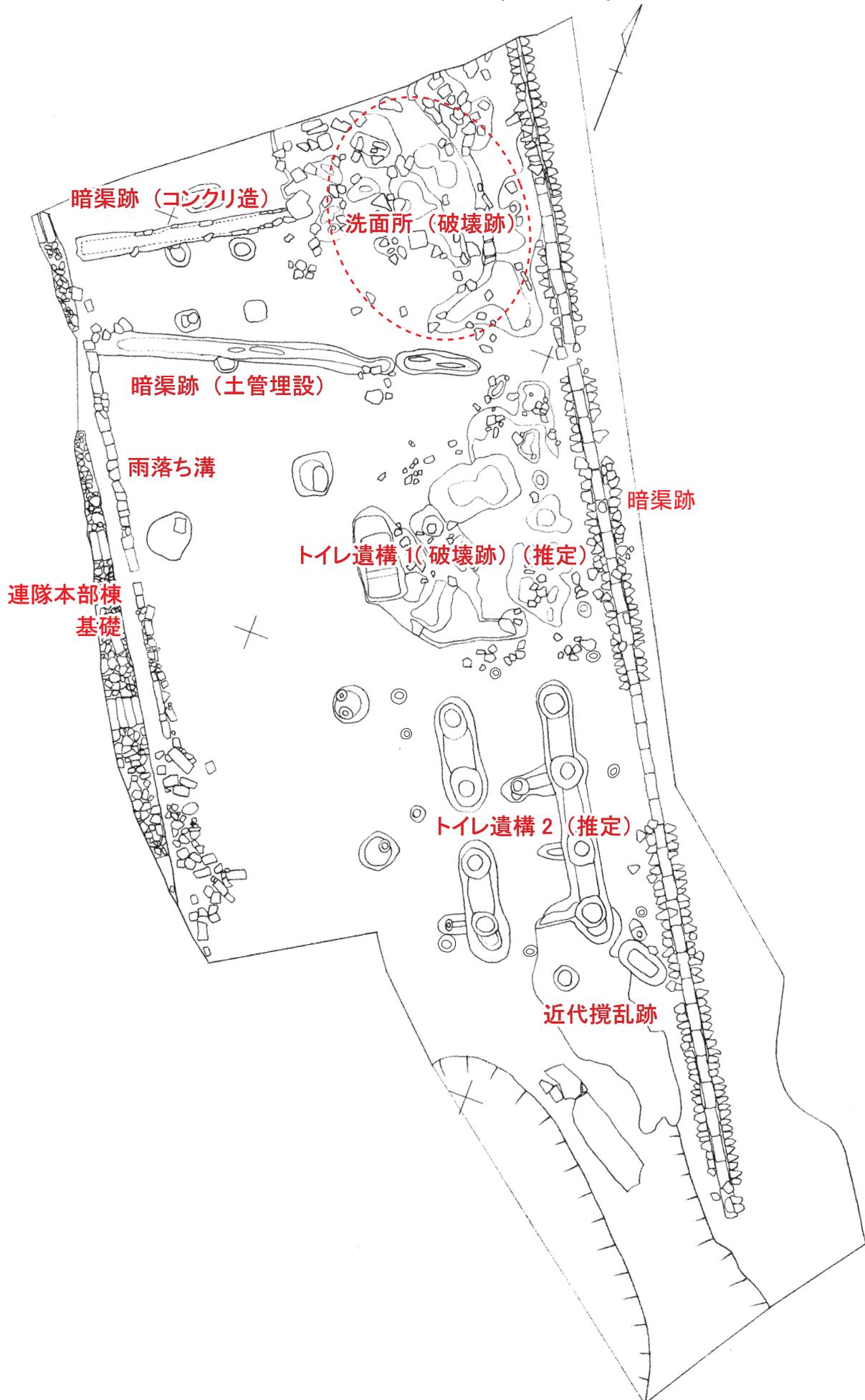
## 検出された遺構

1. 連隊本部棟と雨落ち溝（4ページ）
2. 連隊本部棟と洗面所をつなぐ施設（6ページ）
3. 破壊された洗面所跡（7ページ）
4. トイレ遺構（推定）（8ページ）
5. 暗渠跡（9ページ）

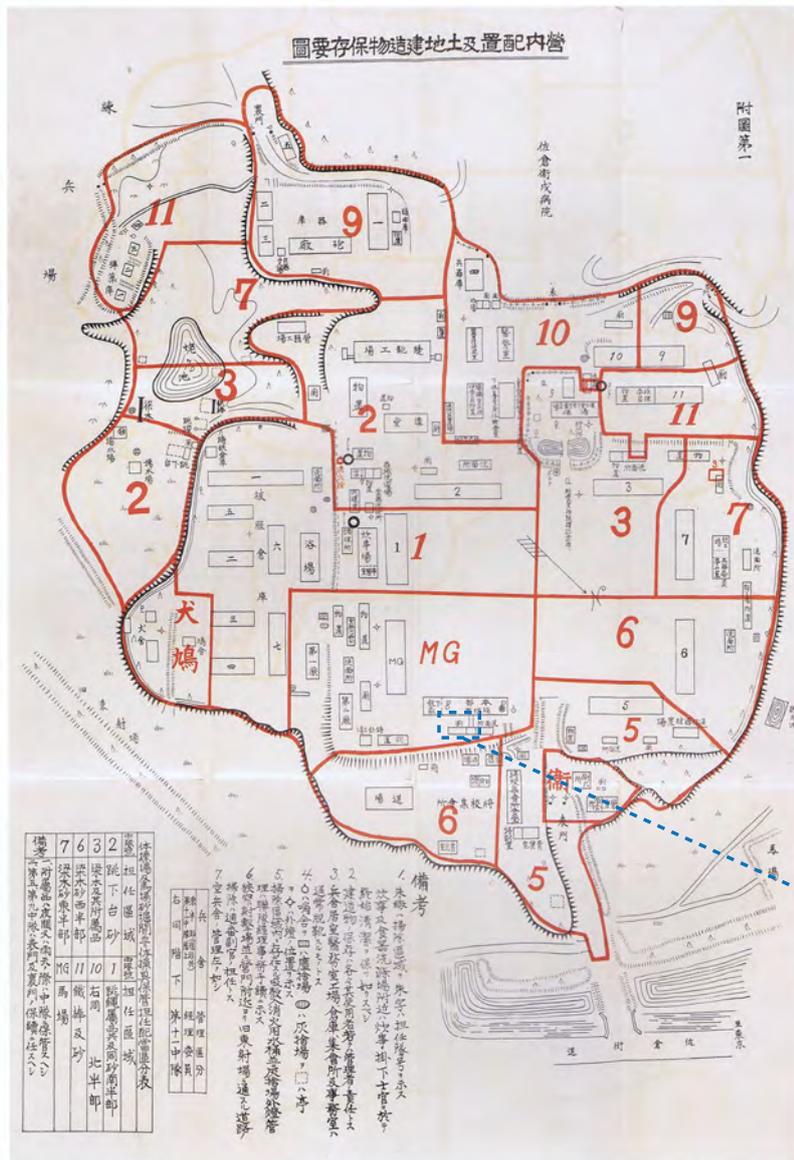
## 検出された遺物

陶磁器類 ジェラール瓦 レンガ 銃弾 銭貨 白い陶製便器 鉄釘 ガラス製品  
（遺物展示コーナーでご覧下さい）

佐倉城跡（歴博第 10 次）近代遺構全測図 (S=1/150)



# 兵營が描かれた絵図面にみる発掘調査地点



←歩兵第五十七連隊の營内配置及土地建造物保存要図（1934年発行『連隊内務規定』所収）

図中の点線で囲った部分が発掘調査区です。連隊本部棟と洗面所、厠などが存在したことが分かります。

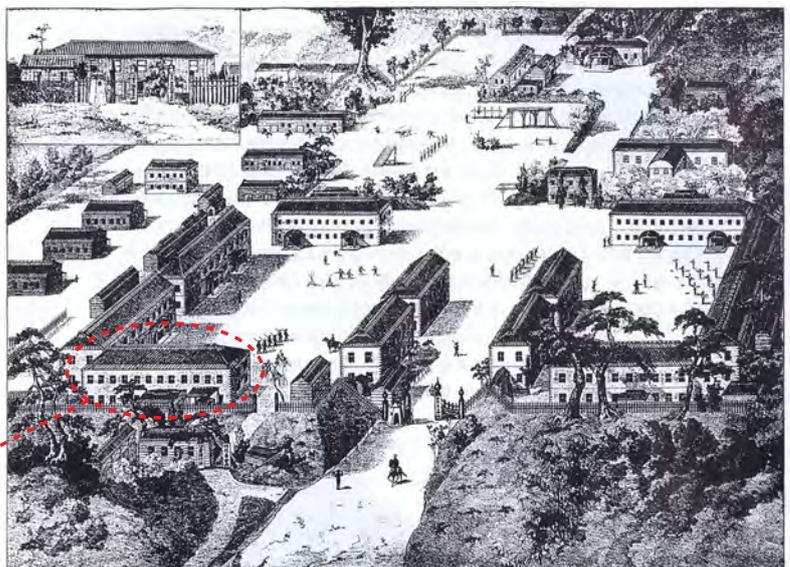
発掘調査区範囲



歩兵第五十七連隊の營内配置及土地建造物保存要図（本館所蔵、1934年発行『連隊内務規定』所収）  
出典：『佐倉連隊にみる戦争の時代』2006 国立歴史民俗博物館

## 佐倉連隊兵營鳥瞰図（1889年） 上野勘次郎作画

図中の点線で囲った部分が発掘調査地点です。長方形の大きな建物が連隊本部棟、その手前の小さな2棟の建物が洗面所と厠と推測されます。



佐倉連隊兵營鳥瞰図（1889年）上野勘次郎作画  
図54 佐倉連隊兵營鳥瞰図（1889年）上野勘次郎作画

出典：『佐倉城跡発掘調査報告』2004 国立歴史民俗博物館

## 連隊本部棟と雨落ち溝



連隊本部棟  
基礎

雨落ち溝

調査区の西端に連隊本部棟の基礎とそれに平行する雨落ち溝が検出されました。

連隊本部棟は全長約50mですが、その内の約20m分の基礎が検出されています。

基礎は、柱が立つ位置に長さ80×幅25cmの短冊形の石を4枚並べ、壁が立つ位置には不整形の石を詰めています。

さらにその上に厚さ約30cmのコンクリートの布基礎を敷いています。

雨落ち溝は長さ60×幅25cm、厚さ10cmの長方形の石を2枚V字に敷いたものです。

連隊本部棟基礎と雨落ち溝



連隊本部棟基礎接写

柱位置（短冊形の石を4枚並べた部分）と壁位置（不整形の石を詰めた部分）の基礎です。



雨落ち溝接写

雨落ち溝がV字の状態に残っているのは一部分しかありませんでした。

## 連隊本部棟の上部構造

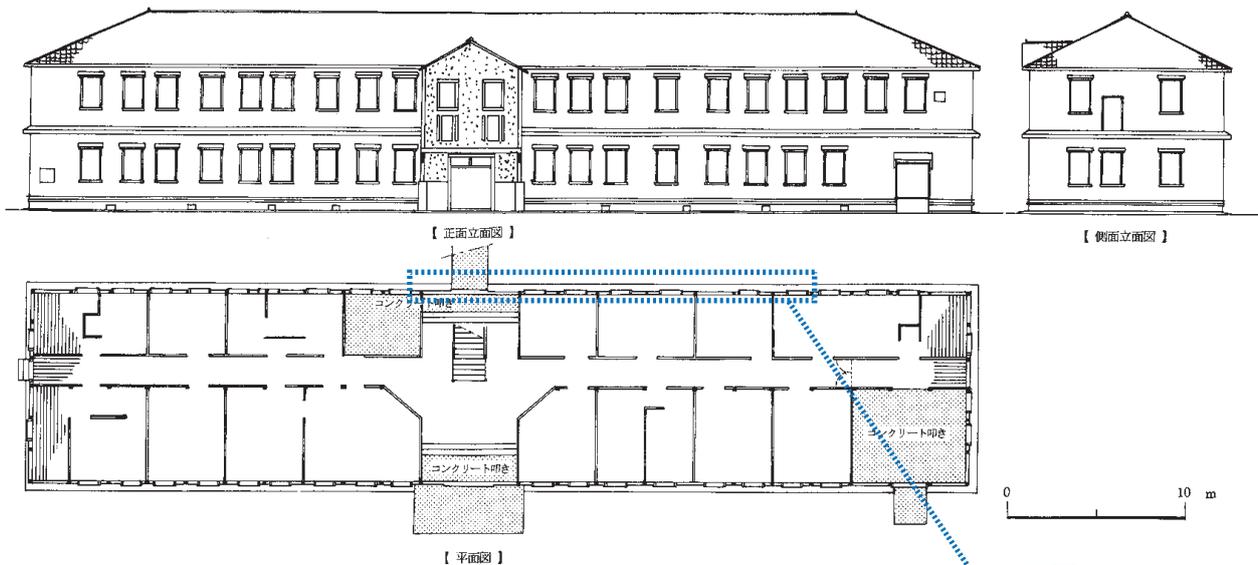


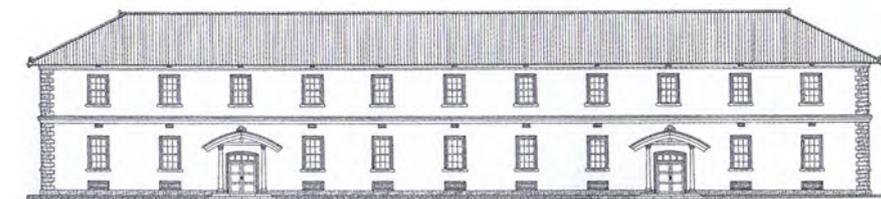
図46 兵舎SB02建物上部構造立体面・1階平面図(撤去前の実測図による)  
(兵舎SB02建物=連隊本部棟)

出典：『佐倉城跡発掘調査報告』2004 国立歴史民俗博物館

発掘調査における  
検出範囲

連隊本部棟は昭和52年頃まで建物が残っていました。木造下見板張り2階建て、和瓦葺き寄棟造りの屋根を持つ建物です。上の図はその立面図・平面図です。ただし、明治初期の建物ではなく建て替えられたものです。

点線部分が発掘調査における検出範囲です。



明治の兵舎 明治7年にできた白壁、洋瓦葺、コーナーストーン張りの兵舎は総長52.8m、梁行10.8mである。仙台にある第四連隊の同大の兵舎から旧状が伺われる。仏国式のマニュアルによる建物とみられる。



歩兵第四連隊兵舎正面図 (仙台市歴史民俗資料館提供)



兵舎に用いたジェラルール瓦 (本館保管) 発掘品 明治初年にフランス人のアルフレッド・ジェラルールが横浜で造り始めた洋式瓦。

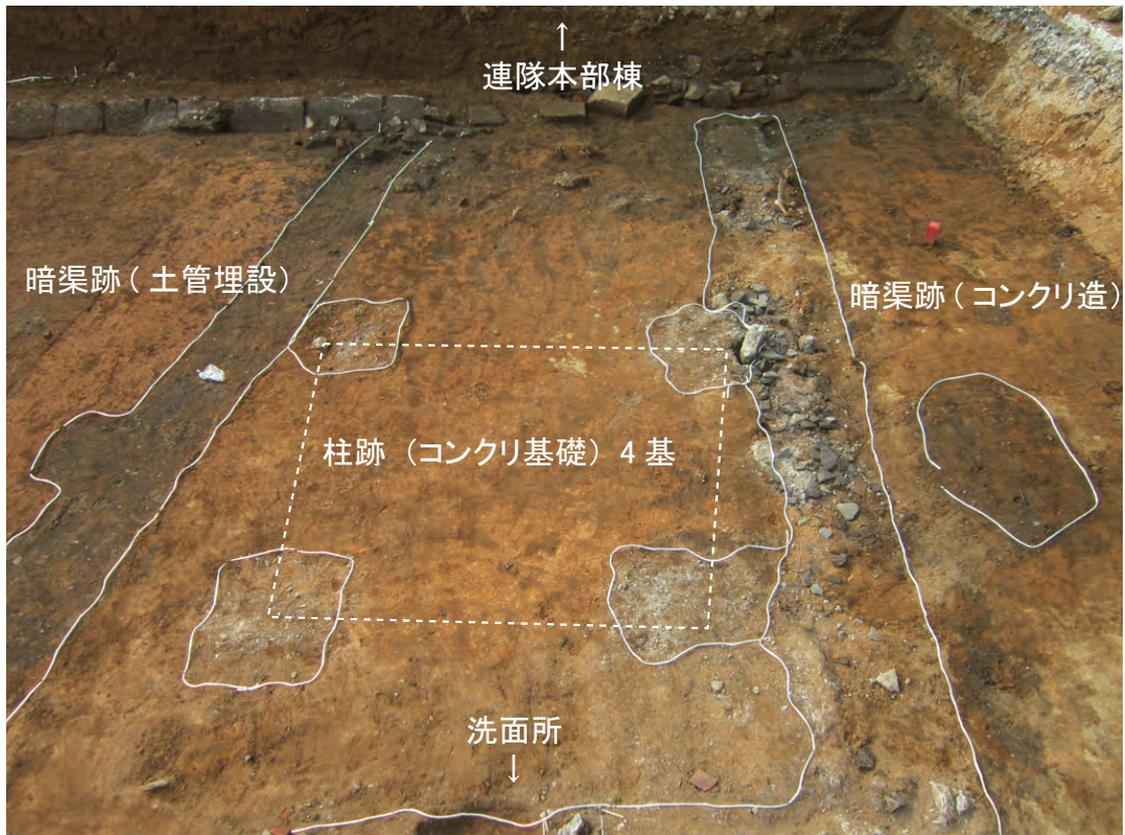
出典：『佐倉連隊にみる戦争の時代』2006 国立歴史民俗博物館

## 2 兵舎建物の変化

明治初期の兵舎は、白壁、洋瓦葺、コーナーストーン張りの建物である。佐倉でその建物基礎が発掘された。その旧状を窺わせる遺構が、同大の仙台の第四連隊の兵舎である。歴史資料館に転用されて残っている。佐倉では一九四五年の敗戦時の兵舎は、近年まで一部が残っていたが、建物は和風の下見板張りの外観に変わっている。一八八五年(明治一八)に旅団本部の工事図でも既に和風化がみられる。

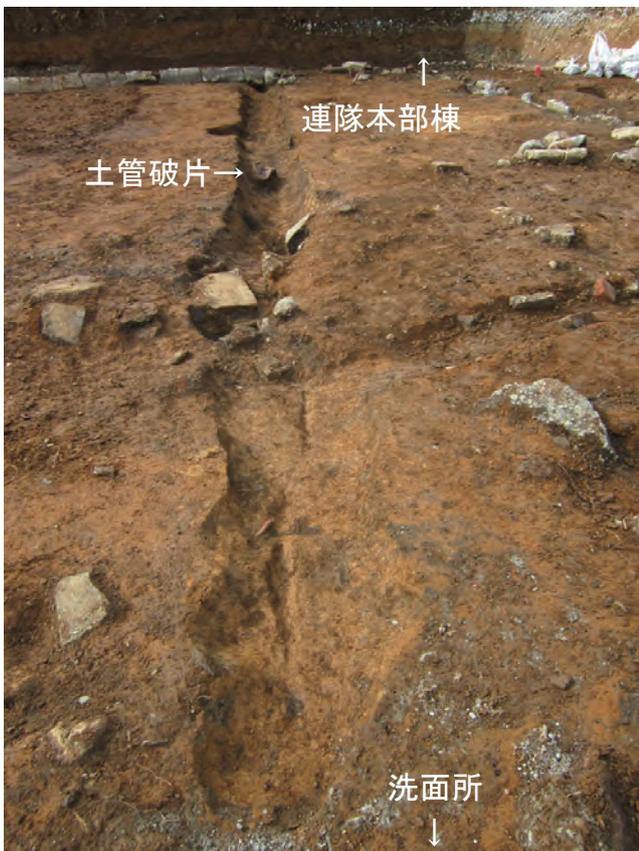
明治初期の連隊本部棟は、上の写真のような様相を呈していたと推測されます。今回の発掘調査で出土したジェラルール瓦は、この建物の屋根に葺かれていたものと考えられます。

## 連隊本部棟と洗面所をつなぐ施設

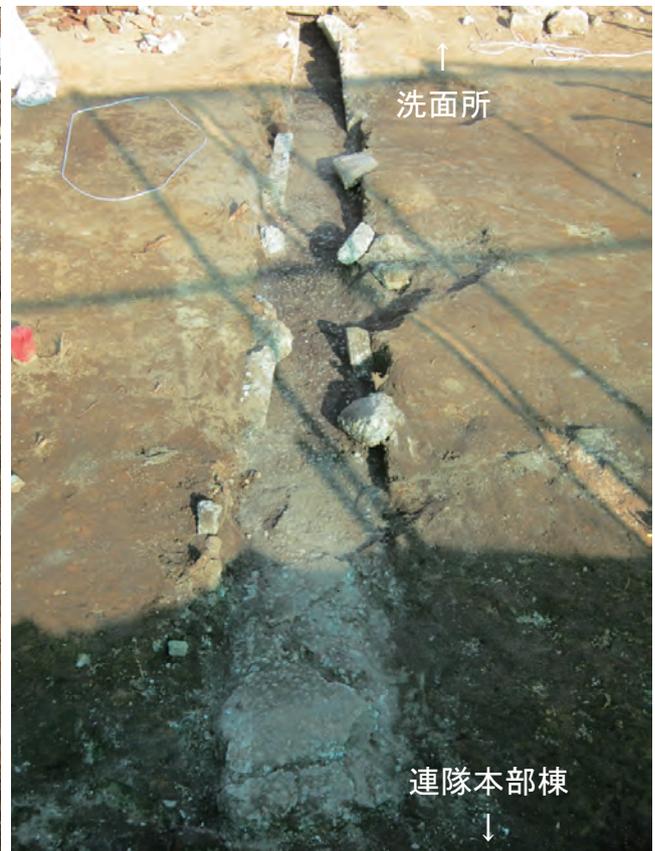


連隊本部棟と洗面所をつなぐ施設

佐倉連隊の営内配置図には、連隊本部棟と洗面所・廁をつなぐ渡り廊下のような施設が描かれています。その位置からはコンクリを基礎とした柱跡と暗渠跡（土管埋設・コンクリ造）が検出されました。

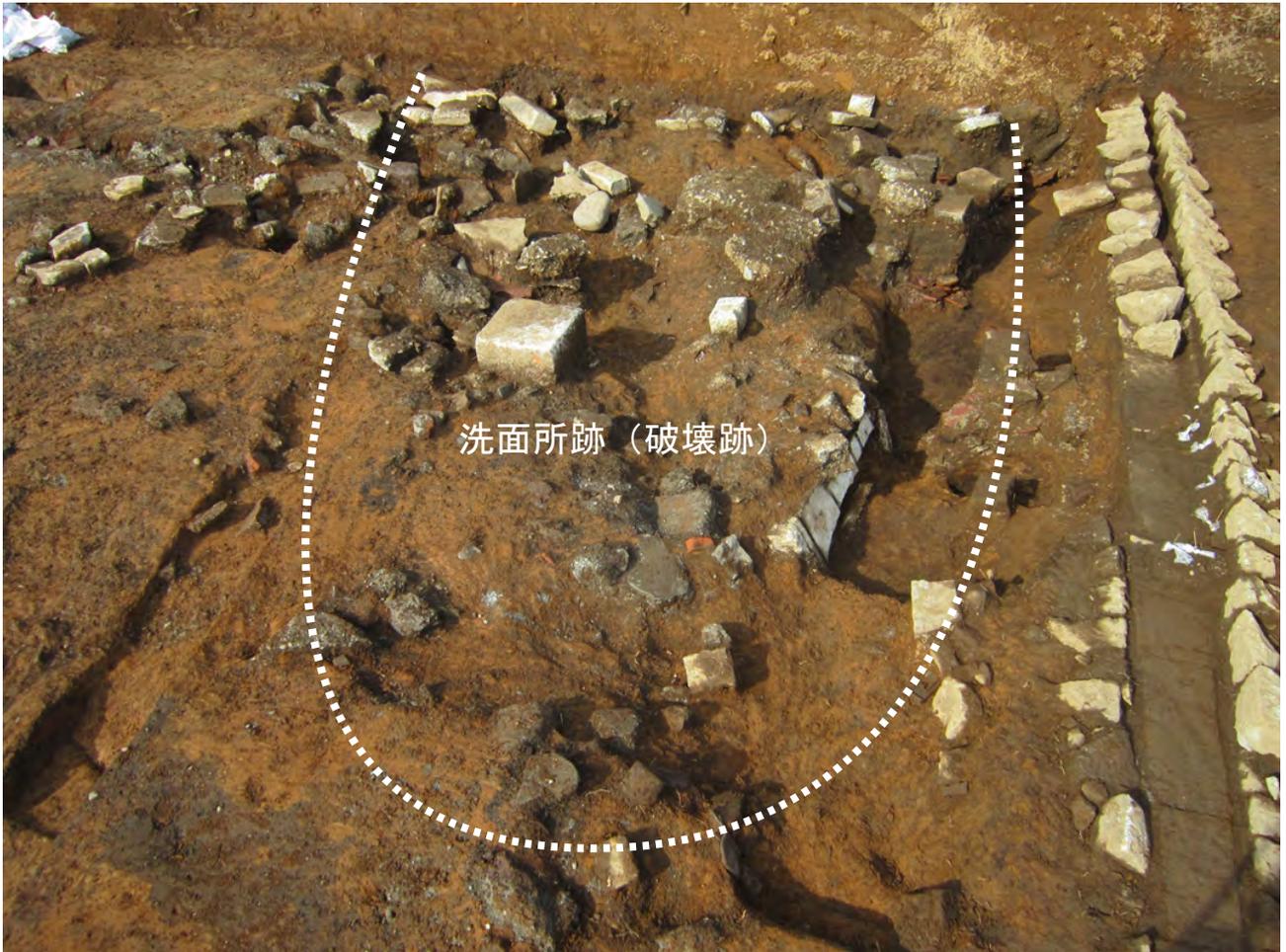


暗渠跡 (土管埋設)



暗渠跡 (コンクリ造)

## 破壊された洗面所跡



↑ 洗面所跡（破壊跡）

洗面所跡は、大きく壊された状態で検出されました。北側の調査区域外まで広がっています。調査区内の8×6mの範囲にコンクリートブロックや石、瓦、レンガなどが散らばっている様子がわかります。土は非常に固く、壊されたときにコンクリや石などとともに転圧されたことが推測されます。この中からは、白い陶製の便器の破片や銃弾、陶磁器類、銭貨、ジェラール瓦などがみつかっています。



### ←洗面所写真

出典：『写真にみる佐倉』  
2004 佐倉市史編纂室

佐倉連隊の兵營の洗面所の写真です。兵營には複数の洗面所や厠があり、この写真の洗面所が今回の調査区の洗面所と同じものかはわかりませんが、構造は壁がなく柱のみでコンクリート製の手洗い場が設置されていたことがわかります。

## トイレ遺構（推定）



### ↑トイレ遺構 2（推定）

トイレ遺構 2 は、直径 80cm、深さ 120cm の円筒状の土坑が 4 基ずつ 2 列、計 8 基並んでいます。一つ一つの土坑には木枠などが設置され大使用のトイレと推測されますが、遺物の出土がほとんどなくまた、営内配置図においてはこの地点に建物の記載はないため、その性格を確定するには今後の検討が必要です。

### ←トイレ遺構 1（破壊跡）（推定）

営内配置図によると「厠」と記されている地点です。洗面所と同様、5m×3m の範囲にコンクリや石、砂利が多数認められ、壊されている状況がわかります。そのなかに、長さ 2.4m、幅 1.2m、深さ 120cm の長方形の掘り込みがあります。この掘り込みが小便などの汚水の集積升と推測されますが、今後の検討が必要です。

## 暗渠跡



暗渠跡（北側）



暗渠跡（南側）

底石（75×30 cm・厚さ 10 cmの長方形）を並べた両側に側石を2段積み上げて造られている石組み暗渠跡です。調査区内で全長 33mにわたって検出されました。



暗渠跡（北側）接写

洗面所の破壊時に、側石が押されて底石の上に乗ってしまっているのがわかります。



暗渠跡（南側）接写

暗渠跡は、北側よりも南側の方が遺存状態が良好でした。側石が2段、隙間なくしっかりと積まれているのがわかります。

